【資料1】

「栄養サマリー」運用の経緯 及び 令和3~4年度のアンケート結果報告

奈良県中和保健所 健康増進課 健康づくり推進係

1.「栄養サマリー」運用の経緯

2. 令和3年~4年度のアンケート調査結果の概要報告

栄養管理における多職種間連携強化支援事業ワーキング委員

~平成27年度

平成28年度~

令和4年度~

背 景

体

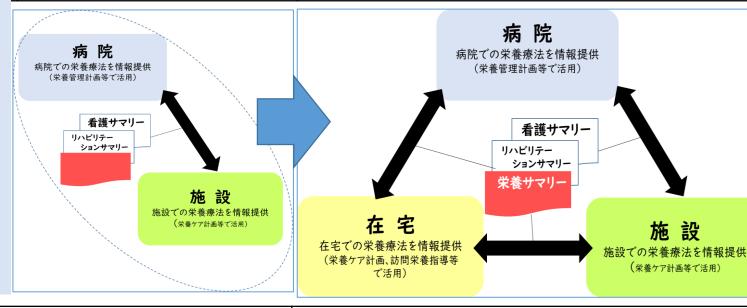
制

(事務局) 葛城保健所

・病院から施設入所や施設 から入院する際の、食事の内 容、形態、栄養状態等の継続 した栄養管理を行うための 共通伝達ツールが必要

- ・在宅療養者や要介護者の増加
- ・住み慣れた地域で安心して暮らせる 仕組みづくりが必要

●葛城集団 給食管理研 究会で検討 し栄養サマ リーや食事 形態一覧表 を作成



種

病院·高齢者施設

管理栄養士・栄養士

病院・高齢者施設 + 地域包括支援センター*

・居宅介護支援事業所★・訪問看護ステーション★

管理栄養士・栄養士

+ケアマネジャー*・看護師*

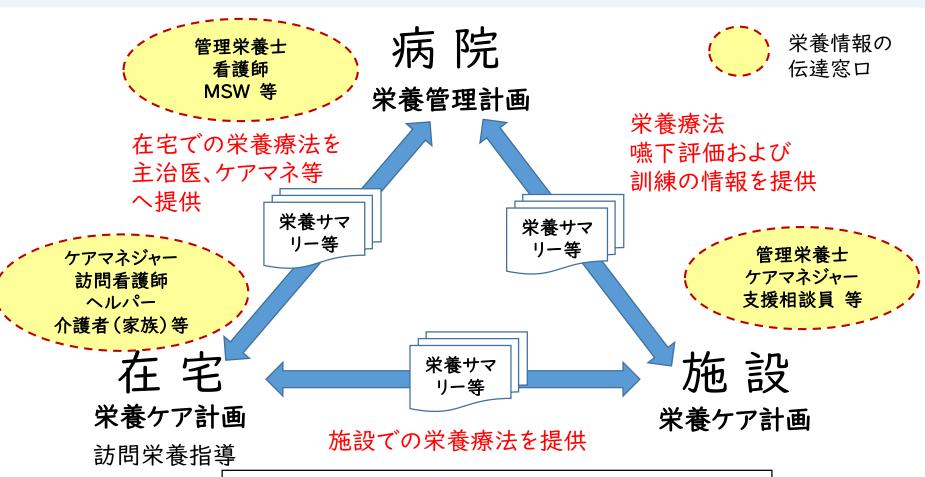
(★:東和医療圏)

施設

(栄養ケア計画等で活用)

医療から介護までの一貫した栄養管理

病院や介護・福祉施設等の療養者の栄養管理情報を相互に活用できるツール (以降「栄養サマリー等」)を作成し、急性期から回復期、在宅復帰まで栄養サマリー を活用することにより継続した栄養管理の提供をめざす。



保健所が連携体制の構築を支援

「栄養サマリー等」を活用した 病院と介護・福祉施設の継続した栄養管理の取り組み I

目的

在宅療養者や要介護者が増加する中、療養者が医療機関や介護・福祉施設等で受けた栄養管理や食生活サービスが途切れることなく提供され、住み慣れた地域で安心して暮らせる仕組みづくりが必要である。

そこで、保健所と管内の病院と介護・福祉施設が連携し栄養サマリー等を作成し、効果的に活用することにより療養者の適切な栄養管理システムの構築を図る。

平成28年度

平成29年度

平成30年度

栄養サマリーの検討

モデル施設による 運用と見直し

栄養サマリーの運用 施設の拡大

- ○ワーキング会議の開催
- ・栄養サマリー等や食形 態一覧表の作成。
- ·効果的な運用方法の検 討
- ○研修会の開催栄養士・管理栄養士と連携した地域包括ケアシステム」

- ○<u>病院や介護・福祉施設等で</u> モデル運用(12施設)
- ○ワーキング会議の開催
- ・アンケート調査の集計、課題の 明確化。
- ・<u>栄養サマリー等の見直し</u>や効果 的な運用方法等の検討。
- ○研修会の開催医療から介護まで、多職種が 連携した栄養・食生活支援を 目指して

- ○ワーキング会議開催
- ○栄養サマリー等<u>新様式</u> の配布
- ○栄養サマリー等活用後の実績報告
- ○栄養サマリー等の<u>運用</u>施設の拡大を目指したアンケート調査の実施
- ○研修会の開催

栄養サマリー運用施設数

7

2

「栄養サマリー等」を活用した 病院と介護・福祉施設の継続した栄養管理の取り組み2

目的

在宅療養者や要介護者が増加する中、療養者が医療機関や介護・福祉施設等で受けた栄養管理や食生活サービスが途切れることなく提供され、住み慣れた地域で安心して暮らせる仕組みづくりが必要である。

そこで、保健所と管内の病院と介護・福祉施設が連携し栄養サマリー等を作成し、効果的に活用することにより療養者の適切な栄養管理システムの構築を図る。

令和元年度

令和2年度

令和3年度

他職種への 栄養サマリーの周知 栄養サマリー活用状況と 今後に向けた検討

栄養管理における多職 種間連携強化

○ワーキング会議の開催

- ・効果的な運用方法の検討
- ・他職種に周知するための チラシ作成及び配付場所 の検討
- ・栄養サマリー運用アンケート調査の内容検討
- ○チラシの配布
- ○アンケート調査の実施

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止

- ○アンケート調査の実施
- ○ワーキング会議の開催
- ・効果的な運用方法の検討
- ・アンケート調査結果分析
- ・他職種に周知するための
- チランの見直し及び配付
- 場所の検討

○ワーキング会議開催

- ○研修会の開催
- ○アンケート調査の実施
- ○東和医療圏ケアマネ・ 訪問看護師等への説明・ 実態調査

24

36

5 I

6

栄養管理おける多職種間連携強化支援事業

目的

在宅療養者や要介護者が増加する中、療養者が医療機関や介護・福祉施設等で受けた栄養管理や食生活サービスが途切れることなく提供され、住み慣れた地域で安心して暮らせる仕組みづくりが必要である。

そこで、保健所と管内の病院と介護・福祉施設が連携し栄養サマリー等を作成し、効果的に活用することにより療養者の適切な栄養管理システムの構築を図る。

令和4年度(案)

令和5年度(予定)

令和6年度(予定)

多職種・在宅への栄養サマリーの周知

他医療圏への展開

栄養サマリーの運用 施設の拡大

○ワーキング会議の開催

- ・東和医療圏のケアマネ、訪問看 護師等含むワーキング委員の選定
- ・令和元年~3年度アンケート調査結果分析
- ・栄養サマリーの多職種・在宅栄 養管理における活用検討(様式、 解説書)
- ○西和(3町)、中和地区への 展開
- ○研修会の開催
- ○アンケート調査の実施

- ○ワーキング会議の開催
- ○中和地区等への展開
- ○研修会の開催
- ○アンケート調査の実施

- ○ワーキング会議の開催
- <u>○御所・橿原・高市地区への</u> 展開
- ○研修会の開催
- ○アンケート調査の実施

→ 35

1.「栄養サマリー」運用の経緯

2. 令和3年~4年度のアンケート調査結果 の概要報告

●令和3年度「食支援」に関するアンケート調査

【対 象】東和医療圏のケアマネジャー及び訪問看護師等 【調査期間】令和3年7月~11月 【回 収 率】70.6%(72施設:(133人)/102施設)

●令和3年度「栄養サマリー」に関するアンケート調査

【対 象】東和医療圏のケアマネジャー及び訪問看護師等 【調査期間】令和4年3月~4月 【回 収 率】32.4%(33施設:(52人)/102施設)

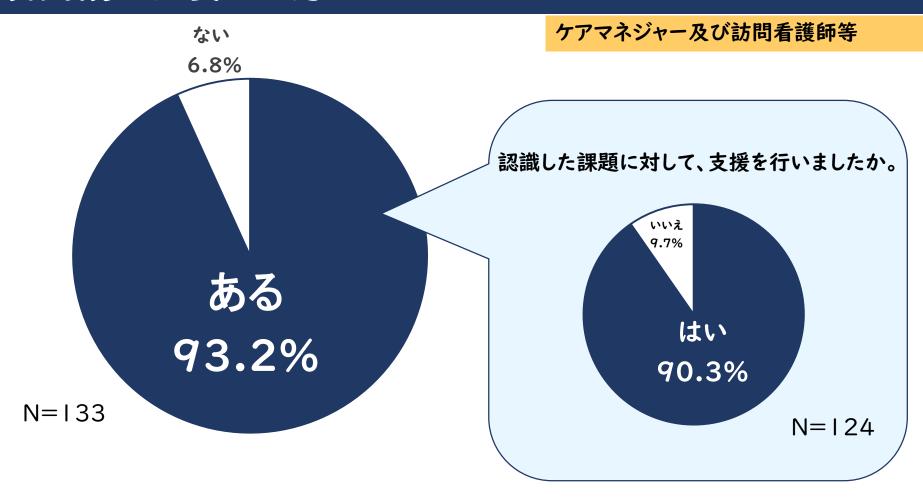
●令和4年度「栄養サマリー」の運用に関するアンケート調査

【対 象】中和保健所管内特定給食施設等(管理栄養士・栄養士がいる施設) 【調査期間】令和4年6月~8月 【回 収 率】51.1%(71施設/139施設)

※栄養サマリーの運用に関するアンケート結果は、令和元年度からの経年データを含みます。

- 1. 在宅における、食支援の必要性
- 2. 食支援のための情報ツール
- 3. 病院・施設・在宅を結ぶ情報ツールの活用

食支援が必要だと感じたことはありますか



食支援が必要と感じている専門職種が93.2%、認識した課題に対して支援を行ったのは90.3%。(専門職種:ケアマネジャー、看護師等)

「食支援」が必要と認識した課題

■食支援課題分類別の内容

ケアマネジャー及び訪問看護師等

(n=124)

分類	内容	回答数
	嚥下能力低下(パーキンソン・脳腫瘍)	28
食事内容	治療食(糖尿、腎臓、胃切、減塩)	30
及爭鬥谷	食事困難・食事量低下(腎がん、歯の状態)	25
	食生活の偏り	4
	身体・血液検査	13
	褥瘡	4
栄養及び身体状態	咀嚼	8
木食及い分体仏窓	嚥下	5
	食欲	1
	その他	6
	本人家族の認識不足、食材の調理指導・支援	10
在宅での食環境	独居、高齢者	8
1111日(の良塚境)	低収入	1
	食事の摂取困難	2
	食事内容検討・説明	10
栄養指導の実施	度事困難・食事重低ト(育かん、圏の状態) 食生活の偏り 身体・血液検査 褥瘡 咀嚼 嚥下 食欲 その他 本人家族の認識不足、食材の調理指導・支援 独居、高齢者 低収入 食事の摂取困難 食事内容検討・説明 栄養補助食品の導入 水分がとれるよう支援	5
	水分がとれるよう支援	1
	介護者の支援体制	1
その他	高齢者への指導困難	1
	ニーズに沿ってチームで介入	ı

認識した課題に対して、支援を行いましたか(1)

■食支援の分類別内容

分類	内容	回答数
	食事のむせ込み・食形態確認	3
食事内容	食形態・食事内容の検討	9
	食形態変更	12
ADL	食事姿勢を直す	ı
	補助食品	6
	配食サービス	6
	調理方法	2
家族への	食形態	4
情報提供・説明	病院紹介	2
	病状説明	ı
	観察報告	2
	ケアの変更	ı
	揚げ物控える	ı
助言	食形態	2
別占	咀嚼しやすい食品サンプル提供	ı
	食べさせ方	2

ケアマネジャー及び訪問看護師等

('n	=	1	2	n	1

分類	内容	回答数
	配食サービス	10
	買い物・調理支援	5
	デイサービスやヘルパー等のサービス利用	5
	通所介護	2
	舌接触補助床の装置	ı
-1-15	ポジショニング説明	4
支援 (導入・増加)	マッサージ	4
(子八 石加)	介助・声かけ	4
	嚥下機能訓練•評価	7
	VE検査	2
	入れ歯調整	ı
	口腔ケア	ı
	体操	ı
W ** 15.** -	栄養補助食品の提案	10
栄養指導の 実施	栄養指導	10
大地	サンプル・パンフ提供	7
	施設と意見交換・相談	2
	病院受診に付き添い	ı
20th	自立支援会議で相談	ı
その他	関われる時間が少ない。(他の処置が優先)	ı
	相談できる栄養士が近くにいない。	ı
	担当者会議開催	1
	(記述回答坊数)	12

認識した課題に対して、支援を行いましたか(2)

■職種別の支援内容

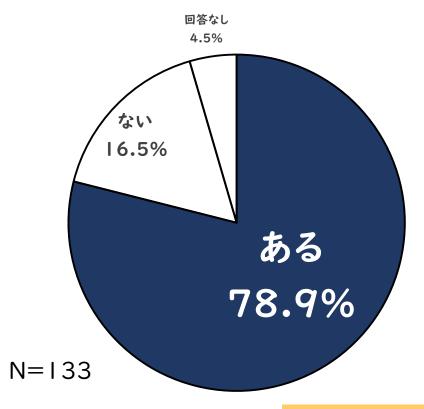
ケアマネジャー及び訪問看護師等 (n=120)

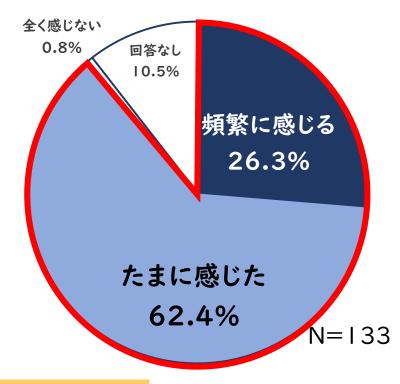
職種	内容	件数
医師	治療·判断·説明·相談(内服) VE検査·栄養剤処方	<u> </u>
歯科医師	入れ歯調整	ı
言語聴覚士	相談・リハビリ	3
歯科衛生士	訪問・介入・支援	5
ケアマネジャー	相談•連携	3
訪問看護師	相談・支援・アドバイス 食事づくりの指導	7
訪問介護	指導、アドバイス・食事介助 介入・連携	4
包括支援センター	相談	ı
管理栄養士	指導、アドバイス、資料提供 訪問・介入・連携	14
摂食嚥下認定看護師	居宅管理指導	ı
ST	リハビリ指導・連携	4
ヘルパー	食事支援	2

(記述回答抜粋)

「食」に関して多職種連携の ご経験はありますか

多職種連携による「食支援」が 必要であると感じたことはありますか



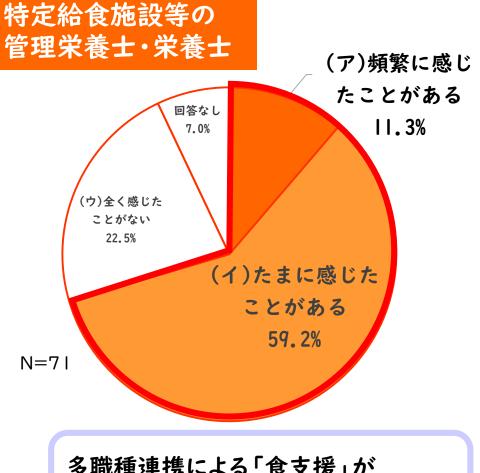


ケアマネジャー及び訪問看護師等

多職種連携の経験がある 専門職種は78.9%。

多職種連携による「食支援」が 必要と感じる専門職種は88.7%。

これまでのお仕事の中で、多職種連携による 「在宅の食支援」が必要であると感じたことはありますか。

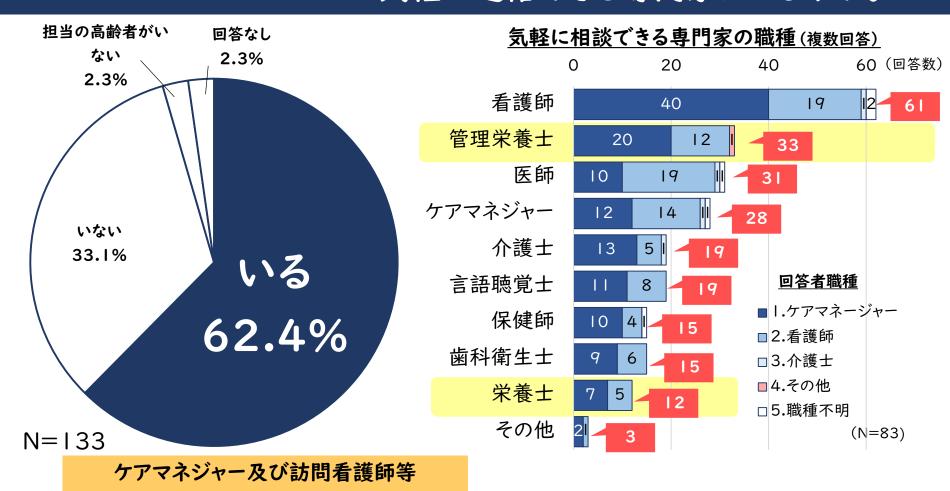


多職種連携による「食支援」が 必要と感じる専門職種は70.5%。 管理栄養士・栄養士が「在宅の食支援」 が必要であると感じた対象者

- ●独居で疾患や認知症がある方
- ●高齢の方
- ●介護度の高い方
- ●嚥下障害がある方
- ●病状に合わせた食事ができない方
- ●夫婦2人暮らしで疾患がある方
- ●家庭で介護食を作ることが困難な方
- ●ショートステイやデイサービス利用者で、食事摂取困難な方
- ●独居で周辺に支援者がいない障害者

など

8. 高齢者の「食」について専門的な意見が欲しい時に、 気軽に連絡できる専門家はいますか。



気軽に連絡できる専門家がいる専門職種は62.4%。その専門家は看護師、管理栄養士、医師の順に多い。

- 1. 在宅における、食支援の必要性
- 2. 食支援のための情報ツール
- 3. 病院・施設・在宅を結ぶ情報ツールの活用

「入院時情報提供書」、「退院調整情報共有書」、

「看護サマリー」などで、情報の共有・連携を行っている。



栄養・食生活の状態を示す項目はあるが、

食支援に関する具体的な情報が不足している。

例)

- お粥の柔らかさはどのぐらい?量は?
- ・トロミはどのぐらいつけたらいいの?
- 刻み食の大きさは?
- ・食事時のベットのリクライニングの角度は? など

入院時情報提供書

入院時情報提供書

*FAXで情報提供する場合は個人情報を消すこと 入院日:平成 年 月 日 作成日:平成 年 月 日

■食事:自立・見守り・一部介助・全介助

·嚥下状態(良·不良)

·摂食状況(良·不良)

・普通・軟菜・刻み・ペースト・トロミ

·経腸栄養

・箸・スプーン・自助具

■調理:自立・見守り・一部介助・全介助

	T	福	业用。)]	その	他(内	容:)
	44	見守		21.40			自立	見守り	一部介助	全介助	備考
食事	П	П	_	П	端下状態 点・不良) 咀嚼状況(良・不良) 普通・教菓・ 刻み・ ヘースト・ hcs 経管栄養	外出	Ξ	⊐			
			_	_	在日本文 在 . 77'-'-' . 自助目	調理		\neg			
口腔清潔	-	_	ı	Γ	義歯(無・有)(上・下・全部)	買い物	_	\neg		\Box	
移動				П	杖 歩行器 車椅子 シルバーカー	洗濯		-	Ξ	Ξ	
移乗	П			П		掃除	_	Γ	С	\Box	
起居			\Box	Γ		金銭管理	=				
入浴		_		Γ	入浴不可(シャワー・清拭) 自宅(浴室)・訪問入浴・通所系サービス	視力					・眼鏡(無・有) ・全官
更衣				$\bar{-}$		聴力	普通	• 44	ク難聴	・難	聴・補聴器(無・有)
44.70	П	_		П	トイレ・ボータブルトイル・尿器・カテーテル オムツ(常時・夜間のみ)	言語	支障	なし・	はっき	りしな	ない・話せない
排泄	' '		' '		失 禁(無・時々有・常時有) 下剤使用(無・有) 洗腸(無・有)	理解	支障	なし・	やや	困難・	できない
服薬管理	П		\equiv		自己管理の状況	睡眠		・時(: 剤使用			民(時間) :)
		大索	吸	31 🗆	気管切開 一胃ろう 膀胱留置カテーテル	認知・ 精神面	徘徊	介置	への	抵抗	焦燥・不穏 攻撃性 意思疎通困難 元 大声を出す 妄想 暴力
医療処置	د ⊔	くトマ	褥	曹(部(位:) □その他()	運動機能					左上肢・右下肢・左下肢・その他 肘関節・股関節・膝関節・その他
その他(ごオ	人の	生格・望	む暮ら	しむ	状況・生活環境・習慣・介護力・医療上の注意点等	F)					
情報提供專	業所	名				担当ケア	マネジ	* -			
TEI	L					F	AX				

退院調整情報共有書

l		退院調整帽								
ı		1	★ケアマ	オジャー	が面談や	カンファ	レンスで収	集した情報	をまとめるシー	トです
ı	ふりがな		t	生別			生	年月日		
l	氏名		男	・女	明・大	· 昭	年	月	日(歳)
ı						入院	施期間(予)	E)		
l	住所	TEL		年	月	B	~ 年	月	日(予定)	
l	要介護度	(未申請・区分変更中・新規申請中・非該当) 総合事業対象	k者 3	医支援(1 • 2)	要介	護(1・2	. 3 . 4	. 5)	

- ■食事:自立・見守り・一部介助・全介助
 - ·嚥下状態(良·不良)
 - ·摂食状況(良·不良)
 - ・普通・軟菜・刻み・ペースト・経腸栄養
 - ・箸・スプーン・自助具
 - ·制限(無·有) 制限内容(塩分·水分·その他)

P.00					家族: 凵 十分 凵 十十万(問題品:
	白立	見守	-		疾境での様子/在宅での宿費占
食事					職 A®(良・不良) 咀嚼状況(良・不良) 普通 ・ 軟菜 ・ 刻み ・ ペースト ・ 経管栄養 著 ・ スプーン ・ 自助具
口腔清潔					機能(無・有)(上・下・全部)
移動					□ 手引き □ 杖 □ 歩行器 □ シルパーカー □ 車いす □ ストレクチャー □ 装具・補装具 □ その他()
移乗					
起居					起き上がり(可・不可) 座位保持(可・不可)立ち上がり(可・不可立位保持(可・不可) 寝返り(可・不可)
入浴(洗身)					洗身(不可・行っていない) 入浴制限(無・有)(シャワー・清拭・その他())入浴時の留意点:
更衣					
排泄					トイレ・ボー灯 ルトイレ・尿器・膀胱留置カテーテル・オムワ(常詩 ・ 夜間のみ) ・ リハビリパンワ(常詩・夜間のみ) 失禁(無・有) 下剤使用(無・有) 沈陽(無・有)
服薬管理					1回配薬・1日配薬 睡眠 良眠・時に不眠・不眠(時間) 睡眠剤使用(無・有)
認知・ 精神面		能高齢: 伏ů(疾			自立度(自立・I・Ia・Ib・Ia・Ib・Ia・Ib・IV・M) 軽知能の原因疾患: ()) 禁御 介護への抵抗 焦燥・不穏 攻撃性 意志疎通困難 幻視・幻聴 昼夜逆転 大声を出す 妄想 暴力
リハヒリ等)頻度: 回/週 / 運動制限(無・有) / リハビリ・運動制限の内容: 左上肢・右下肢・左下肢・その他 / 拘縮:なし・肩関節・肘関節・股関節・膝関節・その他
療養上 注意する 事項					
情報提供	機関名				TEL
面談日時		年年	月月	_	/午前·午後 時分 時分 /午前·午後 時分 時分
【注】退院·证	医所加多	の算算	には、	国の通	知等に拠る算定条件を満たす必要があります。 (H31.2 改訂)

看護サマリー(急性期)

看護サマリー(急性期)

	院先	医療機	関 :							作成日			
5.1	りがな				性別		生年月日		年齢		入院排	期間	
			レギー 記、薬							アレルギーの注意は、薬品を表の他	有無	内容	24
					続柄	自宅				感染症			
堅刍	連絡先	1				携帯				飲酒			
STC /CX	VE 114 7	2			続柄	自宅携帯				喫煙		/ +季	本/
						携市				身長	cm	体重	
診	断名						既往歴						
	1		事動作(形態(普注	通、車	吹卖		ざみ	٠, ١				١,
	活動	麻痺	□無 □有										
			□ 全介助 □	一部介助	見	fb 🗌	自立						
	食事	動作 形態	全介助 □全介助 □普通 □ 軟ゼリー□ 注	一部介助	」 □ 見気		自立 自立 流動		\$	الله الله الله الله الله الله الله الله		Ω	
1 排口			全介助	一部介助 菜 □ き 入 □ 絶 一部介助] 見刊 ざみ : 食] 見刊	fり _ ミキサー fり _	自立 流動			رة ك			
日常生活	食事排泄	形態	全介助	一部介助 菜 □ き 入 □ 維 一部介助 ータブル	」 □ 見 元 ざみ □ : :食 □ □ 見 元 □ オムツ	fb し ミキサー fb し	自立 流動		\$	· \\	S		\
常生	排泄	形態動作	全介助	一部介助 菜 □ き 入 □ 維 一部介助 ータブル □ 最終排便	」 □ 見 元 ざみ □ : :食 □ □ 見 元 □ オムツ	fり ミキサー fり 導	自立 流動			-			
常生		形態 動作 方法	全介助 対	一部介助 菜 □ き 入 □ 終 一部介助 ータブル 最終排便 一部介助	〕 見 、 ざみ : 食 : 〕 見 、 : _ : オムツ : :日	fり ミキサー fり 導	自立 流動 自立	The state of the s		My Carlotter Car	Sw (The state of the s
常生	排泄	形態 動作 方法 動作 方法	全介助 対	一部介助 菜 □ き 入 □ 終 一部介助 ータブル 最終排便 一部介助	〕 □ 見 ♥ ざみ □ : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	fり ミキサー fり 導	自立 流動 自立	The state of the s		-	Sw (w
常生活。 退院	排泄清潔意思	形態 方 動作 方 強 て置	全介助	一部介助 菜 □ き 入 □ 終 一部介助 ータブル 最終排便 一部介助	〕 □ 見 ♥ ざみ □ : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	fり ミキサー fり 導	自立 流動 自立	W		-	aw (
常生活。 退院	排泄清潔意思	形態 方 動作 方 強 て置	全介助	一部介助 菜 □ き 入 □ 終 一部介助 ータブル 最終排便 一部介助	〕 □ 見 ♥ ざみ □ : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	fり ミキサー fり 導	自立 流動 自立	The state of the s		-	and (nus.
常生活退院	排泄清潔意思	形態 方 動作 方 強 て置	全介助	一部介助 菜 □ き 入 □ 終 一部介助 ータブル 最終排便 一部介助		fり ミキサー fり 導	自立 流動 自立	Tu		-	and		and the second second

看護サマリー(回復期)

看護サマリー(回復期)

	施設名					作成日		
	ふりがな	性別	生年月日		年齢		入院期間	
Ì				1			~	
	■アレルギー	の有無	Ę			アレルギー 食品	内容	
			•	a l	-	薬品		
	·食品、薬品	占、その	他	\geq	>	その他		
		420117	-			感染症		
	1	1#.3	st.			命行流	<u> </u>	

■食事

- · 摂食行動 (自立、一部介助、全介助)
- ·嚥下状態(良·不良)
- ·食種(一般、特別食)
- ・食事形態 (常食、全粥、キザミ、ミキサー、ペースト)
- ·経管栄養(経鼻、胃瘻、腸瘻)
- ・義歯(無、有)

日常女	食事	Teach Te	
生活	排泄	野州門 1 日立	
	清潔	入 浴 □自立 □一部介助 □全介助 最終 / □ 腔ケア □自立 □一部介助 □全介助 更 衣 □自立 □一部介助 □全介助	
ſ	意思 疎通	□ できる □ できない()	
ſ	精神面	□ 徘徊 □ 介護抵抗 □ 暴言・暴力 □ その他 ()	
	指導		
施記	设名	記載者	

公益社団法人奈良県看護協会 業務委員会 平成29年6月作成

本人 ・ 本人との続柄

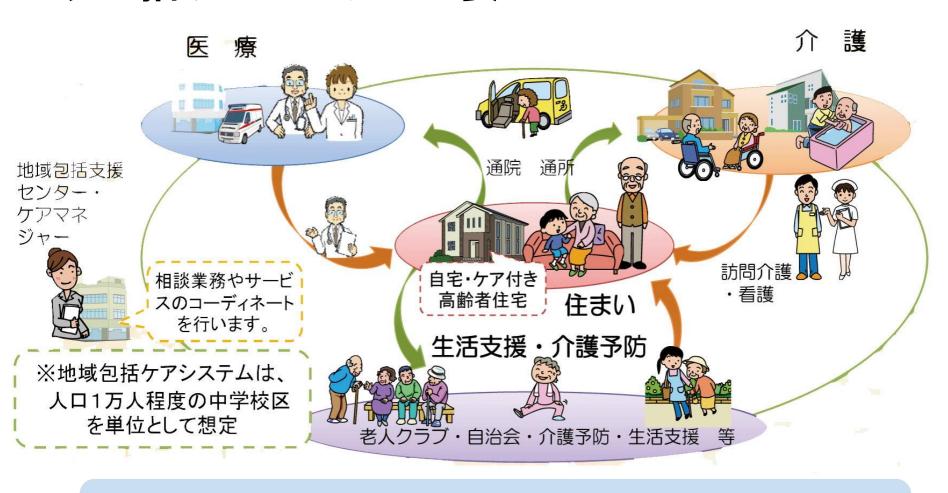
看護サマリー(在宅用)



■食事

- ・(自立、見守り、一部介助、全介助)
- ·嚥下状態(良·不良)
- ·咀嚼状況(良·不良)
- ·注意障害(有·無)
- ・主食(普通、軟飯、かゆ、重湯)
- ・副食(普通、軟菜、刻み、ペースト、トロミ)
- ・食事方法(箸、スプーン、自助具、経管栄養、胃ろう)
- ・制限(有、無、内容:塩分、水分、その他)
- ・義歯(なし、上、下、全部、部分)
- ·自己管理(可、不可)

地域包括ケアシステムの姿



食生活及び栄養障害の改善、疾病の再発予防や疾病予防ができ、地域住民が 住み慣れたところでその人らしい生活が送ることができる。

栄養サマリー(栄養管理連携パス)

栄養サマリー****** 下記の(利用者・患者)様について栄養管理情報を提供します。 この情報については療養者本人もしくは家族の方の了解を得ています。 氏 名 男·女 生年月日 M·T·S·H 日生 身長 cm 体 重 現在 **BMI** 現病名 既往歴 → □経鼻 □胃ろう □腸ろう □その他(摂取手段 □経静脈 → □PPN □TPN) · 投与量(kcal/日) ・ 投与時間(回/日)・追加水分(ml/日) · 形状の理由(栄 養 必要量 塩分)g/現体重Kg 提供量)Kcal/標準体重kg)g/標準体重kg エネルギ たんぱく質 塩分 摂取率 主 食(%) 副 食(特記事項 食 種 □一般食 □治療食((施設での名称)) 口米飯 □軟飯 口全粥)分粥 □重湯 主食量(ロゼリー状 ロミキサー 口水切り 口その他 口とろみ 口おにぎり(ケ) 口きざみ(カットサイズ mm) 副食 口なし ※ 自施設食形態一覧表(添付) 口なし 口あ 学会分類2021 食事内容 栄養補助食品 口なし 口あり(学会分類202 □2-2 □2-1 □0t (例:アレルギー、水分量、薬の相互作用など) 食事回数)回/日 食事に要する時間: 口~30分 □30分~ 介助方法 口自立 口見守り 口一部介助 口全介助 使用器具 ロスプーン(大・小) ロフォーク □自助食器 口自助具(口座位 □ リクライニング (角度 ŧì ロなし ロときどき 口あり (使用量 水分形態 □段階1(薄い・ウスターソース状) □段階2(中間・ポタージュ状) □段階3(濃い・ハチミツ状) 口その他 咀嚼-嚥下 咀 口自歯 口部分義歯 口その他(状態 口問題なし 口見守り 口やや問題がある 口できない ロなし 口あり(部位 口あり □問題なし □下痢ぎみ □便秘ぎみ(下剤:□なし □あり) 口あり 身体状態 むくみ 口なし 口あり(部位 口内残留 口なし 口あり ロなし 口あり(口右 口左) 本人の嗜好 家族の希望 特記事項 記入年月日 施設名 担当者

食支援に関する

具体的な情報を記載した

情報共有ツール



食事形態一覧 スタンダード表 | 公益社団法人奈良県栄養士会 (nara-eiyoushikai.or.jp)

栄養サマリー(栄養管理連携パス)/奈良県公式ホームページ (pref.nara.ip)

- 1. 在宅における、食支援の必要性
- 2. 食支援のための情報ツール
- 3. 病院・施設・在宅を結ぶ情報ツールの活用

栄養サマリー(栄養管理連携パス)の運用

病院

病院での栄養療法を情報提供 (栄養管理計画等で活用)

H30年度から 「栄養サマリー」 運用施設を拡大

看護サマリー

リハビリテー ションサマリー

栄養サマリー

施設

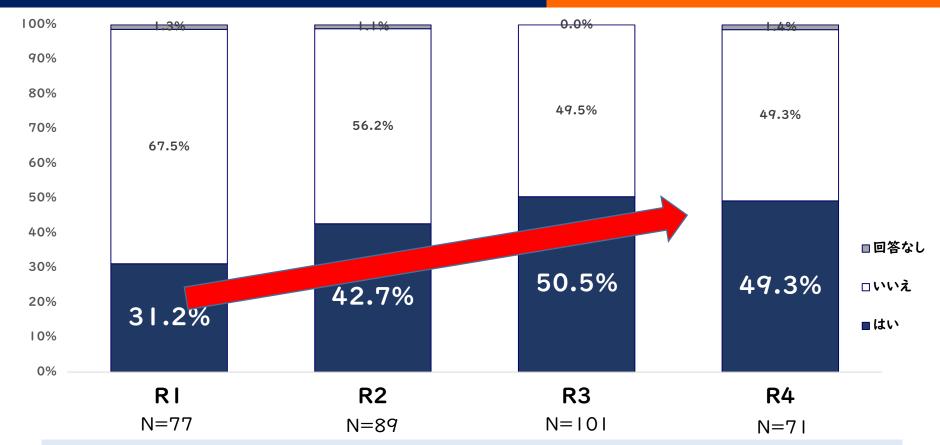
施設での栄養療法を情報提供 (栄養ケア計画等で活用)

在宅

在宅での栄養療法を情報提供 (栄養ケア計画、訪問栄養指導等 で活用)

「栄養の情報に特化した情報提供書(看護サマリー等を除く)」 の運用をしていますか

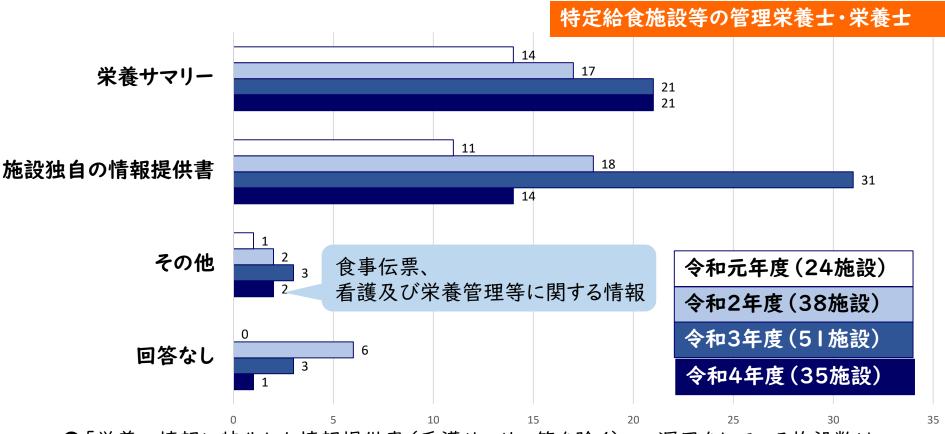
特定給食施設等の管理栄養士・栄養士



※各年度のアンケート回収率:R1年度 59.9%(77施設/129施設)、R2年度65.9%(89施設/135施設)、R3年度73.7%(101施設/137施設)、R4年度51.1%(71施設/139施設)

- ●令和元年度から令和3年度にかけて「栄養の情報に特化した情報提供書(看護サマリー等を除く)」の 運用をしている施設が増加。令和3年度から令和4年度にかけては横ばい。
- ●令和元年度31.2%(24施設)、令和2年度42.7%(36施設)、令和3年度50.5%(51施設)、令和4年 度(35施設)が運用している。

運用している情報提供書の種類(重複回答あり)

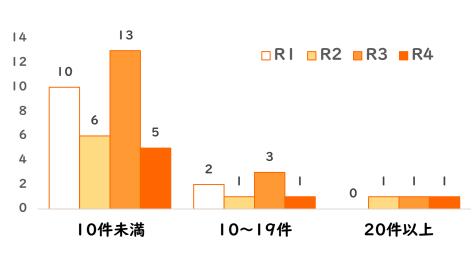


- ●「栄養の情報に特化した情報提供書(看護サマリー等を除く)」の運用をしている施設数は、 令和4年度の回答数が減少したため、運用している施設数が減少。
- ●しかし、栄養サマリーを使用している施設は令和3年度と変わらず21施設であった。
- ●栄養サマリー、施設独自の情報提供書を併用している施設は2施設。 (令和2年度は5施設、令和3年度は7施設))

施設からの「栄養サマリー」依頼・提供件数

依頼件数別の施設数

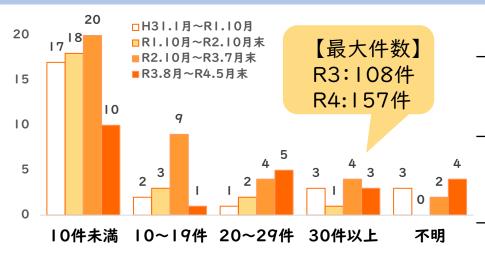
特定給食施設等の管理栄養士・栄養士



依頼件数の総数

H3 年 月 ~R元年 0月	R元年10月 ~R2年10月 末	R2年10月 ~R3年7月末	R3年8月 ~R4年5月末
44 _件	44 _件	84 件	50件

提供件数別の施設数



提供件数の総数



貴施設から「栄養サマリー」を提供できますか

特定給食施設等の管理栄養士・栄養士

提供施設別の件数(再掲)

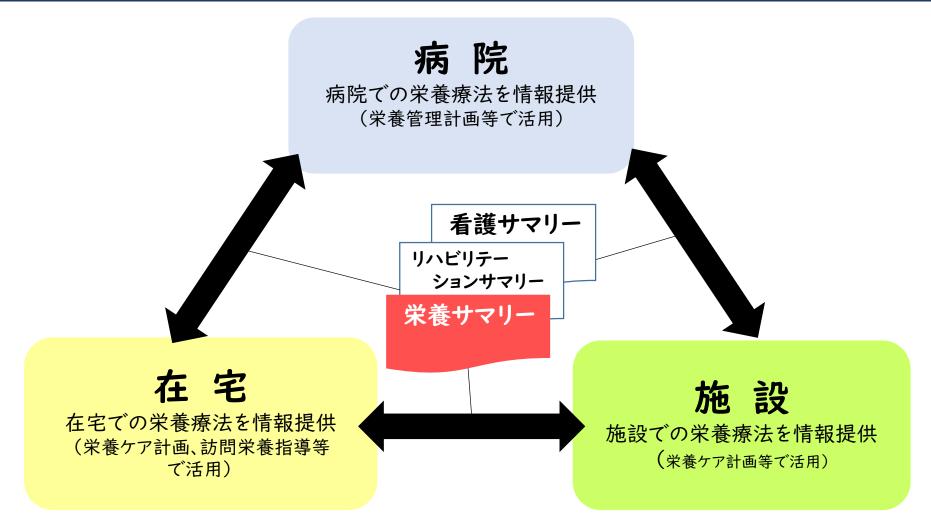
■(再掲)提供先施設別件数



■病院 ■介護老人保健施設 □老人福祉施設 □社会福祉施設 ■その他

			提供先の施設			
		病院	施設	在宅	回答なし	総計
提	病院	8	76	5	189	278
供	介護老人保健施設	13	20	6		39
提供元の	老人福祉施設	61				61
施	社会福祉施設					
施設	その他					
	合計	82	96		189	378

栄養サマリー(栄養管理連携パス)の運用



▼栄養サマリーを活用することで

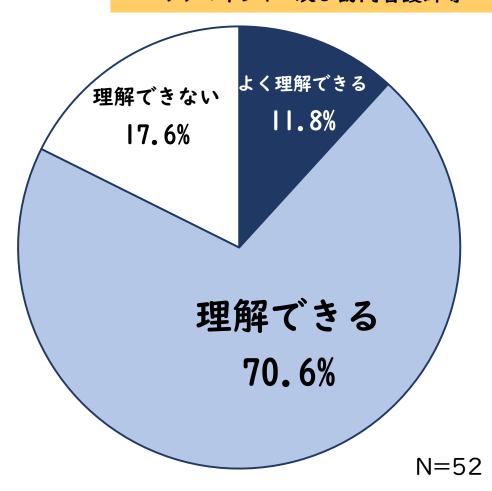
病院から施設・在宅、施設・在宅から病院へ、施設から在宅へと移るときに患者様・利用者様の<u>栄養に関する情報が途切れることなく把握</u>でき、場所がかわっても<u>適切な栄養管理を行うことに繋がります</u>。

【活用例】施設利用者面談時、再入所時連携加算、低栄養改善加算、施設間移動の際等

栄養サマリーの様式をみて在宅療養患者の状態や 必要なケア等が理解できますか。



ケアマネジャー及び訪問看護師等

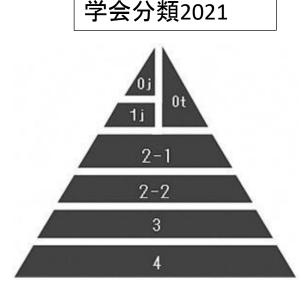


「栄養サマリー」のどの部分が理解できないのか

理解できないこと

ケアマネジャー及び訪問看護師等

- ●栄養の必要量、提供量
- ●学会分類
- ●学会分類のIjのムース状・ゼリー状は施設によって準備できる方を選択するのか、どちらでもよいということか。
- ●学会分類4、3も、基準は3つに区分されているが、どれが3、4の形状に該当するのか。
- ●栄養摂取率について、ベースとなる物がわかりに くいので%で書きにくい。
- ●食事内容で※主食の"水切り"とはどのような形態か。



日本嚥下リハビリテーション学会 嚥下調整食分類2021

※主食の水切り:粥から水分を除いた特殊な主食のこと。トロミがあると飲み込めないが、水分があるとむせてしまうため、軟飯よりも柔らかく歯茎で潰せるかたさで、水分がない主食形態。

「栄養サマリー」のどの部分が理解できないのか

ケアマネジャー及び訪問看護師等

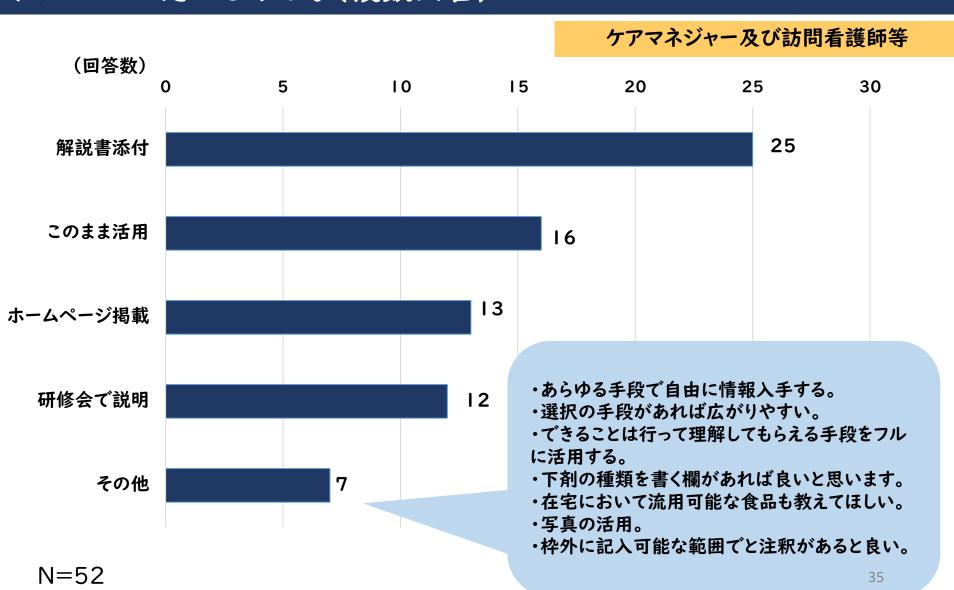
栄養サマリーに思うこと

- ●活用したい。
- ●本人状態像(現状)はイメージし易い。
- ●必要な情報を得る部分が自分自身が抜けている。
- ●イメージができても、理解できているかわからない。
- ●支援につなげるのは難しい。
- ●軽度介護者等との関わりが多いため、栄養ケアの必要性が低い。

今後の活用に向けて

- ●各施設の調理する人員数などにより提供できない食事形態があれば、今後努力が必要。
- ●これらの現状における具体的な課題や課題解決のための適切なケアを展開するための<u>活</u> 用方法について専門的視点からの解説が欲しい。(アセスメントまでふみこんだ記載)
- ●在宅で具体的に<u>食支援をどうするか、受け皿となる宅食サービス</u>もあるのか、<u>家族への調理指導</u>などにつなげる必要がある。

「栄養サマリー」をより理解し、活用するためには、どのようなものがあればいいと思いますか。(複数回答)



「栄養サマリー」に記入することがある場合、 <u>どのような媒体形式であれば良いと思いますか。_(複数回答)</u>

